



感動のそばに、いつも。

# 企業版ふるさと納税を活用した農山漁村に おける課題解決取り組み事例

## 【ひろさき援農プロジェクト】

# 1. ひろさき援農プロジェクト全体概要

事例概要	
自治体名	ひろさき 青森県弘前市
寄附額 寄附件数	¥ 10,000,000 / 2件 ¥5,000,000×2件×2年間(2023年～2024年)
寄附までの プロセス	・令和2年度よりニッカウヰスキー(株)が援農ボランティアを実施。 ・アサヒビール(株)およびニッカウヰスキー(株)から、 <b>地域のりんご・シードル産業の活性化に役立ててほしい</b> 、と寄附の申し出。
事業概要	【農業・観光連携りんご産業活性化事業】 弘前市の農業課題である <b>繁忙期の労働力不足の解決</b> に向けて、その一助となる <b>援農ボランティアツアー</b> を実施。
実施状況 (令和6年4月現在)	令和5年度に事業開始。令和5年10月～11月にかけて全5日実施し、全国から282名が参加。
寄附企業の 活用ポイント	りんごを原料とするシードルを製造・販売する両企業が、 <b>りんご・シードル産業の課題解決や活性化</b> を図るため。
寄附企業との 連携・交流等	・飲料メーカーと弘前市での協議の中でりんご産業の支援案が生まれ、(株)JT Bに業務を委託し4者で構築。 ・飲料メーカー及び旅行業界の社員もボランティアツアーに参加。
寄附企業紹介URL	<a href="https://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/seido/kigyouubanfurusatouzei.html">https://www.city.hirosaki.aomori.jp/jouhou/seido/kigyouubanfurusatouzei.html</a>

## (プロジェクト概要)

全国からりんご収穫ボランティアの参加者を募り、弘前市内のりんご農家のもとで1日 従事していただくツアーを企画・運営する事業。また、ツアーの前後に観光滞在できるように宿泊助成を行い、農業と観光の連携により 関係人口の増加も図る。

## JTBが3者の思い、ニーズを相互につなげて援農プロジェクトをプロデュース

※ダイヤモンドオンラインより抜粋

ひろさき援農プロジェクトは弘前市、ニッカウヰスキー、アサヒビールの3者の思いやニーズを繋ぎ合わせ、JT Bを含めた4者のアセット(技術やビジネスネットワーク、農家とのネットワークなど)を生かした共創事業として、JT Bがプロデュース。  
「プロジェクトの主眼はりんご農家の人手不足の解消にあります。民間企業の力を借りることで、企業版ふるさと納税の増大や弘前りんごブランドの価値向上、農業と観光の連携による関係人口の増大なども目指しました」と弘前市の澁谷はプロジェクトの意義を説明する。

ひろさき援農プロジェクトでは、財源としてニッカウヰスキーやアサヒビールによる企業版ふるさと納税として使われる構造になっている。また、JT Bでは企画構想から、企業と自治体の折衝窓口、ボランティアツアーの企画、オペレーションまでを担当している。



(令和5年度) 援農ボランティアツアーの様子

## 2. ひろさき援農プロジェクトにおけるJT Bの役割

### 弘前市の課題

- りんご産業における人手不足解消
- 弘前りんごのブランド価値向上
- 農業と観光の連携による関係人口の増加

### 弘前市の役割

- りんご農家と支援者のマッチング
- 支援者の送迎手配・お弁当手配
- 収穫作業の備品配布
- 宿泊補助

### ニッカウキスキーの課題

- 地元地域との絆を深めたい
- りんご産業をもっと活性化したい
- 弘前シードルの認知度を向上させたい

### ニッカウキスキーの役割

- 弘前市に企業版ふるさと納税  
→援農プロジェクトの財源に

### JT Bの役割

- 3者の求める価値をマッチングし、JT Bも含めた4者のアセット（さまざまなネットワークや経験）を活用して、地域と企業の共創事業として「ひろさき援農プロジェクト」をプロデュース
- 実際の援農ボランティアツアーの企画・オペレーション

### アサヒビールの課題

- 「本業で取り組む『サステナビリティ経営』」に沿った活動として、地域貢献を推進したい
- ニッカシードルをリブランディングしたい

### アサヒビールの役割

- 弘前市に企業版ふるさと納税  
→援農プロジェクトの財源に



写真左から、JT Bの井上孝昭氏、弘前市の滝谷明伸氏、ニッカウキスキーの龍瀬生氏、アサヒビールの佐藤猛博氏

# 4. 援農ボランティアツアー(内容)

## ■行程

08:00 弘前駅集合



09:00 収穫作業



12:00 昼食



13:00 収穫作業



15:30 解散

## ■特徴

### ハイヤー手配

行程の移動は全てハイヤー対応

### 備品・ノベルティの用意

雨合羽・長靴・手袋・タオル・シールドル etc

### 宿泊補助

1泊/3,000円(お1人様2泊まで適用)



# 5. ひろさき縁農サポーター認定制度

援農活動に取り組む企業等をサポーター認定

➔ 農業を起点に企業等との持続的な関係(縁)を構築



認定証授与式の様子



第1号 ニッカウヰスキー(株)



第2号 アサヒビール(株)

# 7. 援農ボランティアツアーのスキーム ※初期提案の抜粋



2024年8月上旬～9月

2024年10月～11月

2024年12月～

## 事前施策 (人流の契機を創る魅力的な企画準備+SNS含めた告知+集客)

### 援農ツアー参加見込み客 (幅広い世代にアプローチ)

- 個人参加者 ●組織募集 (企業、組織団体)
- 学生 学校 (域内) 大学/短大/専門学校 ※学生も対象へ

### 参加者募集・問い合わせ・相談 (常駐スタッフによる専用デスク開設)

- 援農ツアー特設サイト作成 ●専用デスク開設 (常駐スタッフ)
- 青森県・弘前市への問い合わせ対応 ●参加者エントリー集約
- オプションツアー受付 ●各種書類発送

### 様々なチャネルを活用したツアー募集告知

- ステークホルダーのWEB等媒体での告知
- パンフレット・チラシ・ポスター制作 ●募集の営業活動
- 関係各所へのポスター・チラシ配布・掲出 (ホテル・飲食店・観光拠点)

### SNSを駆使した効果的な情報発信 (ツアーの魅力伝える動画作成)

- 新聞・TV・通信社等のメディアへのプレスリリース
- Youtube インスタ X 等のSNSでの定期的な情報発信 (投稿・広告PR)

### 定期的かつ連続性のあるコンテンツ配信 (投稿・動画)



農業 受入れ農家さん調整【継続・新規】【×職業案内所、×弘前市農政課】・折衝

観光 ツアー造成・観光プラン企画【×観光事業者、×弘前市観光課】・折衝

## 援農ツアー実施

訪弘・援農ツアー体験

オプションツアーによる弘前の魅力を満喫体験

滞在延伸

周遊

魅力の再発見  
新たな観光コンテンツ

コミュニケーション  
(地域生産農家様との交流)

地域理解、関係人口への機運醸成

ツアー中取材

ツアー振り返り

農家さんとの交流・援農実施

弘前の魅力体感・理解促進

## 援農後コミュニケーション

ツアー満足度  
参加者エンゲージメント  
向上

弘前ファンの拡大

企業

個人

農業・観光支援

新たな  
コミュニケーション  
ネットワーク形成

継続した弘前への訪問  
援農参加リピーターの  
創出

次回に向けたプロモーション  
ダイジェスト動画配信

継続した事業支援と  
課題解決・取り組みの  
拡大に向けた協議

## 8. メディア掲載例【現代ビジネス メディア】

2025.01.09 # AD special

### 「没頭しちゃう」「楽しすぎる」…青森の弘前に「希望者が殺到」する「すごいボランティア」があった

#### 全国からボランティアが殺到する「大人気ツアー」

「たわかに来る」とはこのことかと思えるほど、ずっしりとしたりんごが枝々を赤く彩る。人気品種“ふじ”が収穫最盛期を迎えた11月初旬、青森県弘前市の工藤農園で、りんごをもく作業に勤しむのは日本各地から参加したボランティアたちだ。

東京都から参加した30代女性は、

「夫が弘前出身のため、興味が湧いて応募しました。コツを掴めば簡単に摘み取れて、思わず没頭してしまいました(笑)」

と、初めての農作業で味わう達成感にっこり。続けて「地域一体となって盛り上げているツアーに参加したことで、弘前市を応援する気持ちがぐっと強まりました」と語る。



2023年10月にスタートしたこのボランティアツアーは、市内のりんご生産者を支援するために、弘前市・ニッカウキスキー・アサヒビールの3者がタッグを組んだ「ひろさき援農プロジェクト」の一環だ。第2回となる2024年度（10～11月）は、全3回で165人もボランティアが収穫作業を体験した。これまでにない官民連携のプロジェクトとしても注目を集めている。

参加者は各自で弘前駅に集合後、グループに分かれて、農家でりんごの収穫などを手伝う「援農活動」をする。作業時間は午前中と午後でたっぷり6時間ほど。現地交通費と昼食代は市が負担し、10泊分の宿泊費の一部補助も利用可能だ。

お土産として、ニッカウキスキー弘前工場で造られた「ニッカ弘前生シードル」が提供されるのもお楽しみの一つ。言わずもがな、シードルはりんごを使ったお酒だ。

さらに2024年度はオプションコースが用意され、好評を得ている。弘前市農林部農政課・課長の澁谷明伸さん曰く、

「初年度に参加いただいた方々にアンケートを取ったところ、『温泉に入りたかった』『生産者と交流したかった』という感想があったのです。そこで、市内の日帰り温泉や街歩き観光を楽しんでいただけるプランを設けました。今回（2024年度）はりんご生産者との交流会は悪天候により中止になってしまったのですが、来年は実現させたいですね」



参加者の声をいち早く汲み取り、2年目でツアーを進化させたスピード感には驚かされる。前出の京都府から参加した女性は、「温泉コース」を選択。温泉にゆったりと浸かるひとときで、農作業の疲れは心地よくほぐれるはずだ。

#### 日本一のりんご産業、その窮地を救うために



弘前市とニッカウキスキーのつながりは、シードルによってさらに深まっていく。

#### 弘前の発展、りんごとシードルの未来のために

「ひろさき援農プロジェクト」について、澁谷さんは、

「アサヒビールさんとニッカウキスキーさんの発信力があってこそ、ボランティアツアーに多くの方が参加くださって、農家支援を実現できています。行政では足りない部分で、力を貸していただきました」

と官民連携の強みを強調する。

ひろさき援農プロジェクトは、官公庁からの評価もきわめて高い。昨年12月には、内閣府が主催する「第7回企業版ふるさと納税に係る大臣表彰」に本プロジェクトが選定された。これは、企業版ふるさと納税の活用において、特に顕著な功績があったと認められる団体が選出されるものであり、地方公共団体部門の受賞は全4団体。

さらに、農林水産省と内閣官房が主催する「第11回ディスカバー農山漁村（むら）の宝」にも選定されており、これは、農林水産業によって地域の活性化に貢献した優良な事例が全国から30ほど選ばれるというもの。しかも、ひろさき援農プロジェクトは、そのなかでも特にすぐれた事例に与えられる「優秀賞（コミュニティ・地産地消部門）」を獲得したのである。

ひろさき援農プロジェクトが「地方の課題解決」において、重要な最先端の事例として評価されていることがうかがえる。

DIAMOND  
online

JTB

## 青森県弘前市「援農プロジェクト」に学ぶ 企業による 持続可能な地域貢献



### 企業と地域・社会の絆を深めてエンゲージメントを強化

地域創生が叫ばれて久しいが、人口減少や働き手の不足による産業の衰退など、地域が抱える課題は深刻さを増している。一方、SDGsやESG経営の取り組みの一環として、企業の社会貢献に対する意欲は高まっている。そこで注目されているのが、地方自治体と民間企業の連携による地域活性化だが、一過性の活動で終わっては意味がない。地域と企業のつながりを強め、産官連携を持続可能なものとするにはどうすればいいのか。交流創造事業を事業ドメインとするJTBでは、この課題を解決するサービスを事業化し全国展開して成果を上げている。その具体的な取り組みを詳しく紹介する。

### 深刻化するりんご農家の人手不足に 待ったをかける

青森県弘前市。そのりんご畑で楽しそうに収穫に励む人たちがいる。実は、この人々は農家ではない。JTBが企画したツアーに参加した観光客だ。一体どうしたことなのか――。

弘前市は日本一のリんごの産地だ。2022年において青森県全体で日本のりんご生産量の約60%に当たる43万9000<sup>ト</sup>を生産したが、うち約18万<sup>ト</sup>は弘前市によるものである。「約18万<sup>ト</sup>という生産量は、青森県に次ぐりんごの産地である長野県の年間生産量（13万2600<sup>ト</sup>）をも大きく上回る規模です」（弘前市農林部農政課課長・しほや 蓋谷明伸氏）。

そんな弘前市が直面していたのが、りんご農家における深刻な人手不足である（図1）。

「人手不足は日本の農業に共通した課題ですが、りんご農家の場合はかなり深刻で、弘前市のりんご農家全体の約8割が労働力不足を懸念しています。特に5月・6月の摘果期や9月から11月の収穫期など、労働力が集中して必要になる繁忙期には多くの農家が人手の確保に苦勞を強いられています」（蓋谷氏）

そんな人手不足の深刻化に待ったをかけるべく、弘前市では「市職員のりんご生産アルバイトの兼業」制度や、



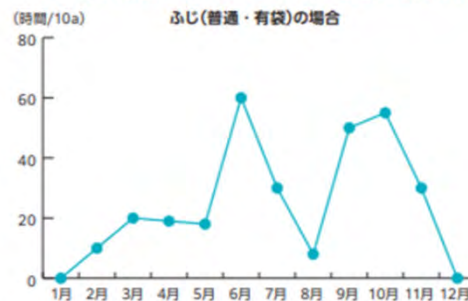
ニッカウキスキー 弘前工場の外観

障がい者などに農業生産活動に携わってもらうことで新たな働き手の確保につなげる「農福学連携」などさまざまな対策を打ってきた。加えて、りんご農家の繁忙期における労働支援を地元企業に要請。それに応じる形で、20年以降、弘前市に製造工場を持つニッカウキスキーの社員がボランティアでりんご収穫を手伝うようになった。

「ニッカウキスキーは、シードルの製造事業を70年の長きにわたり弘前市に展開してきたことから、弘前市に根差す企業として地域との絆を深めたいという強い思いがありました。また、シードル事業の維持・成長のために、弘前市のりんご産業のお手伝いをしたい、さらには、弘前シードルの認知度を向上させたいとの思いもありました」（ニッカウキスキー弘前工場 理事・工場長のしほや 瀬瀬生氏）

月別労働時間

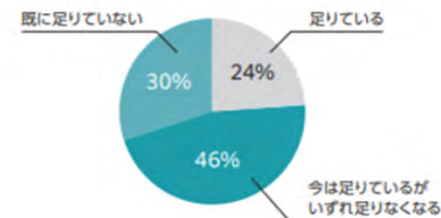
5～6月の摘果 9～11月の収穫の時期に特に集中



資料：青森県「農業経営指標」

労働力の確保状況

全体の約8割が労働力不足を懸念



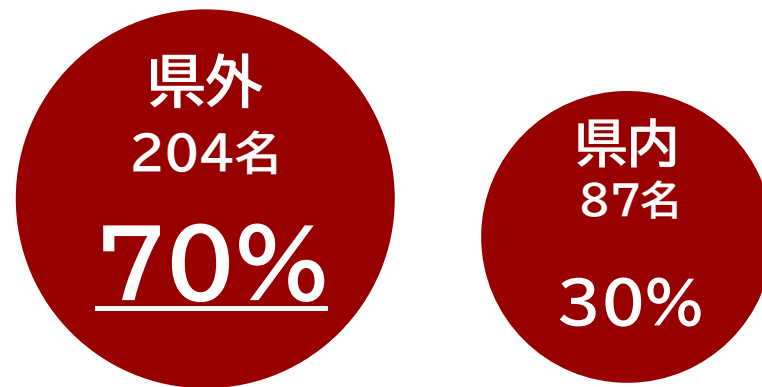
資料：弘前市「令和元年度今後の営農に関するアンケート」



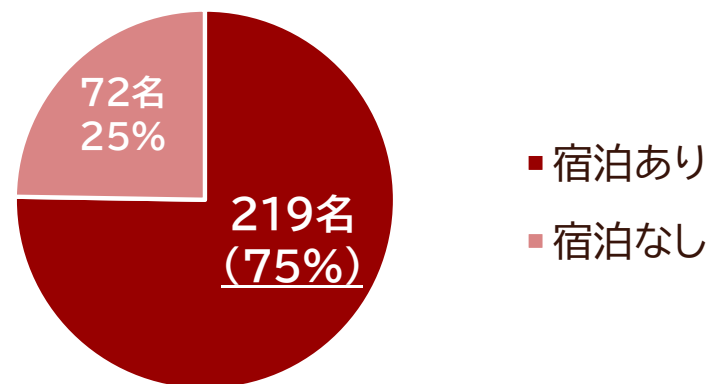
## ■実績

開催時期	10月～11月のうち5日間 (10/15、10/22、10/29、11/4、11/12)
主な作業	りんご収穫
作業時間	9:00～15:30
受入農家	29名
参加者	<b>282名</b> ※一般参加者:74名 企業参加者:208名 (参画企業数36社、うち22社が令和5年新規参画) ※継続率参画率100%

## ■参加者(居住地別)



## ■参加者(宿泊者数)





## ■受入農家からの声

- ・りんごのことを知ってもらえて良かった。
- ・他県、他産業の人と関わることでいい刺激になった。
- ・弘前りんごをPRできる良い事業だと思う。
- ・援農ボランティアを継続してほしい。
- ・悪天候でも頑張ってくれて嬉しかった。

## ■参加者からの声

- ・農園の皆さんが親切で楽しく作業できた。
- ・ご縁を大事にしたい。
- ・ツアーをきっかけに初めて弘前を訪れ、観光も楽しめた。
- ・また参加したい、事業を継続してほしい。
- ・この作業を毎日やるのは大変だと思った。